

要望演題

Sat. Nov 15, 2025 9:30 AM - 10:20 AM JST | Sat. Nov 15, 2025 12:30 AM - 1:20 AM UTC 皿 Room 4

[R17] 要望演題 17 大腸手術の教育1

座長：山口 智弘(がん研究会有明病院大腸外科), 美甘 (阪田) 麻裕(浜松医科大学外科学第二講座)

[R17-6] 腹腔鏡下直腸切除術における技術認定制度の有用性

小野 李香<sup>1</sup>, 富永 哲朗<sup>2</sup>, 石井 光寿<sup>1</sup>, 久永 真<sup>1</sup>, 野田 恵佑<sup>2</sup>, 白石 斗士雄<sup>2</sup>, 山下 真理子<sup>2</sup>, 橋本 慎太郎<sup>2</sup>, 片山 宏己<sup>2</sup>, 高村 祐磨<sup>2</sup>, 荒木 政人<sup>1</sup>, 角田 順久<sup>1</sup>, 野中 隆<sup>2</sup> (1.佐世保市総合医療センター外科, 2.長崎大学病院大腸肛門外科)

背景：腹腔鏡下直腸手術は技術的に難度が高い。日本内視鏡外科技能認定制度（ESSQS）は、腹腔鏡外科医の技能を客観的に評価する目的で設立された。これまでに、腹腔鏡下直腸手術におけるESSQSの有用性の報告は限られている。今回われわれは、腹腔鏡下直腸癌手術の短期および長期成績に対するESSQSの効果を検討した。

方法：2016年から2023年の間に長崎県下6施設で腹腔鏡下直腸切除術を受けた933人を後方視的に検討した。ESSQS認定外科医が術者の患者（expert group、n=568）と、ESSQS未認定外科医が術者の患者（non expert group、n=365）の2グループに分類した。傾向スコアマッチング後、各々299人の患者がマッチングされた。

結果：マッチング前、expert groupではperformance status不良（PS $\geq$ 3）の割合が高く（10.6% 対 4.1%、 $p<0.001$ ）、下部直腸癌が多く（32.0% vs 18.4%、 $p<0.001$ ）、術前治療の割合が多く（17.3% vs 8.2%、 $p<0.001$ ）、骨盤リンパ節郭清施行が多かった（30.8% vs 21.4%、 $p=0.001$ ）。マッチング後、両群の背景因子に有意差は認めなかった。expert groupは開腹移行率（0.3% vs 2.3%、 $p=0.034$ ）および術後合併症（18.1% vs 26.1%、 $p=0.037$ ）の発生率が低かった。無再発生存率（ $p=0.811$ ）および全生存率（ $p=0.374$ ）は両群間で差は認めなかった。結論：ESSQS認定医による腹腔鏡下直腸手術は、開腹移行や術後合併症の低下などの良好な短期成績であった。